

大麦栽培情報 5月号

令和8年4月27日
J A 柳 川
南筑後普及指導センター

1 生育概況

8年産大麦の生育は、ほ場ごとの差が大きく、出穂期にもばらつきがありますが、昨年と比べ早く推移しています。また、3月下旬～4月中旬にかけてまとまった降雨があったため、根が傷み急激に枯れ熟れする可能性があります。そのため、ほ場をこまめに確認し、適期収穫に努めます。

2 収穫適期

11月下旬播種の大麦の出穂期及び予想収穫適期は、下表のとおりです。

出芽や生育が遅かったほ場は、出穂期や成熟期も遅くなります。本年は出穂期のほ場間差が大きいため、ほ場毎に生育を確認し、適期収穫に努めます。

品種名	出穂期	予想収穫期	備考
はるか二条	3月23～24日 中心	5月12日頃から	播種時期、出穂期によって予想収穫期は異なります

※収穫期は出穂後の平均気温積算による方法で予測。

※今後の気象条件により、収穫適期は前後することがあります。

※収穫の際は、必ずJAが定めた荷受計画に従ってください。

※高水分で麦を収穫するとコンテナ内で赤かび病が蔓延することがあるため、荷受前日の収穫は避け、収穫後はただちに乾燥させます。

3 雑草について

カラスノエンドウ（マメ科雑草）の種子は大麦の収穫時に混入すると、調製で除去できないため、検査等級を低下させる原因となります。収穫作業前に、ほ場内のカラスノエンドウを除去するとともに、次年度以降の発生を抑えるため、畦畔部も除草します。

4 排水対策について

最後に今一度、ほ場内に水が停滞しないよう確認し、確実に排水されるよう、排水溝の溝さらえを行い、排水路を水尻につなげます。

5 異品種混入防止について

異品種混入防止のため、ほ場内にある異品種（小麦など）は抜き取ります。

6 収穫後の麦わらについて

麦わらは焼却せず、土づくりのためにすき込みましょう

わらすき込みの効果

- ・すき込みにより、腐植の低下を緩和し、地力を維持できます
- ・土壌が軟らかくなるため、耕うん作業が容易になり、また根の伸長を促します

<水稲作前の麦わらすき込みのポイント>

① 深めに耕起する

- ・麦わらが短いと浮き上がりやすいため、やや長め（20cm程度）に切断します
- ・麦わらが田面に残らないように、やや深めに耕して土中へ埋没させます

② 代かきの水は最小限度で（瀉かき）

- ・尾輪の跡に水がたまる程度のごく浅水で、荒代かきを行います
- ・麦わらの浮き上がり防止のため、代かきのときはロータリの回転は遅くします

③ 基肥を増肥

- ・麦わらの分解の際に一時的に窒素を消費するため、麦わらをすき込んだほ場は、**窒素成分 2kg(硫安の場合は 10kg)/10a を増肥**して、生育を確保します
- ※生育期間が長い「実りつくし」は、増肥は不要です

④ 田植え後の水管理の徹底（間断かん水でガス抜き）

- ・麦わらの分解で発生するガスにより、稲の活着が悪くなることもあるため、水管理を徹底します
- ・田植え後、除草剤散布までの間は浅水とします
- ・除草剤散布後 1 週間は湛水し、その後は間断かん水してガス抜きを促進します

<大豆作前の麦わらすき込みのポイント>

① 麦わらの細断

- ・播種の際に回転ロールに支障がないように麦わらを細断し、ほ場に均一に散布します（特に枕部分）

② すき込みの時期

- ・排水性維持のため、麦収穫後のほ場は耕起せず、麦うねを残した状態にしておき、組作業で大豆の播種直前にすき込むか、部分浅耕一工程播種で播種と同時にすき込みます
- ・やむを得ず事前にすき込む場合は、麦収穫直後にできるだけ浅くすき込みます

③ 播種

- ・耕起時の碎土、播種後の鎮圧をしっかり行い、出芽率を高めます